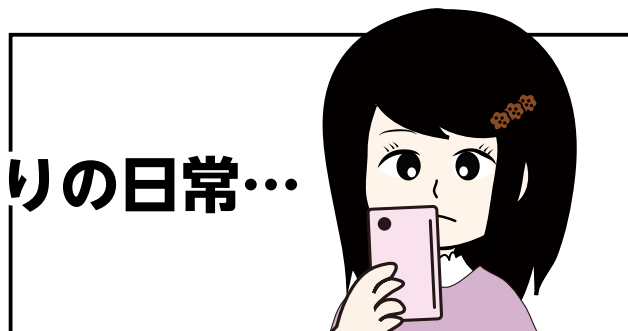
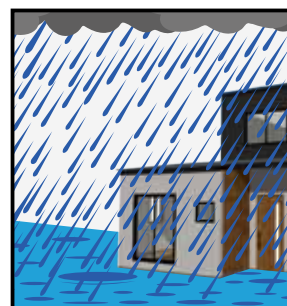




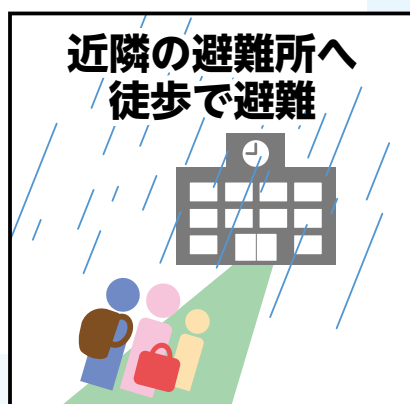
いつもどおりの日常…



—— 災害は突然、やってくる ——



自宅にいるあなた。どうする？



解説は特5ページをご覧ください。

# 逃げ遅れゼロへ





check point

### 3 避難先を複数用意！

複数の避難先を考えておき、状況に応じてより安全な避難を選択しましょう。

パターン①

浸水のおそれがない  
親戚・知人宅等

パターン②

浸水しない階への  
在宅避難

パターン③

①・②が難しい場合  
避難所

※廃校・休校となった江面第二小学校、上内小学校、菖蒲南中学校は、当面の間、避難所開設の際は利用可能です。

あなたの避難パターンをまとめよう！

- ①親戚・知人宅等 ( )
- ②在宅避難 可能 ( 階) ・ 不可能
- ③避難所 ( )



うちの場合は…

- ①県外のおばさんの家
- ②2階に在宅避難可能
- ③近隣の江面小学校 (安全レベル★★)

Point!

外へ避難する場合は、安全な避難経路を事前に確認しておきましょう！特に道路が冠水していると、ふたが外れたマンホールや側溝、用水路などが見えない場合もあります。



check point

### 4 持出品・備蓄品を準備！

今のうちに準備しておこう！

#### 外へ避難する場合

非常時にすぐ持ち出せるよう、リュックサックなどに入れておきましょう。

#### 持出品の例

- 食料・飲料水
- 携帯電話
- 充電器
- 薬
- マスク、体温計、消毒液
- 現金、通帳、印鑑
- タオル
- ビニール袋
- スリッパ

#### 在宅避難する場合

浸水は長期間続く場合があるので、十分な備蓄品を用意しましょう。

#### 備蓄品の例

- 1週間分の食料
- 1週間分の飲料水 (1人1日3ℓ)
- 携帯トイレ
- カセットコンロ・ボンベ

Point!

ローリングストックで無駄なく備蓄！



#### 表紙の解説

2階へ避難できるかどうかは洪水避難決断ブックをご確認ください。避難する場合は十分な備蓄品の準備を。(check point 1,4)

避難指示発令後の車での避難は渋滞に巻き込まれる可能性があります。市外への避難はお早めに。(check point 2,3)

避難指示発令後は徒歩での避難が原則。避難所は事前に確認し、持出品はすぐに持ち出せるように。(check point 2,3,4)

# NEXT

では、実際にマイ・タイムラインを作ってみましょう！

check point

### 5 情報収集手段を確認！

テレビ・ラジオや市ホームページ、SNS、防災行政無線のほか、避難行動の検討に役立つウェブサイト「川の防災情報」をご活用ください。

#### 川の防災情報で確認できること

- ・川の水位と危険性
- ・洪水の予報・警報
- ・雨の状況 等



大雨の際は防災行政無線が聞き取りづらいことも。市のメール配信や緊急情報架電サービスをぜひご利用ください。



## 避難に必要な情報を整理しよう

check point

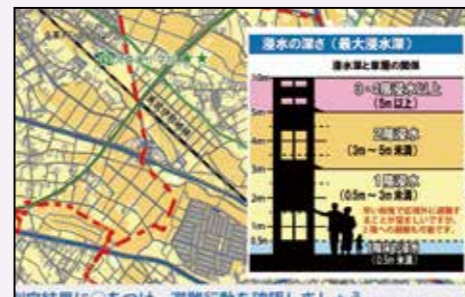
### 1 自宅の水害リスクを確認！



「洪水避難決断ブック」(令和3年4月に全戸配布)



2次元コードを読み取るか、冊子を用意して一緒に確認しよう！



マップの色で、周辺河川氾濫時の浸水の深さが分かります。

あなたの自宅は何色？ (○をつけよう)

- ピンク
- オレンジ
- きいろ
- みずいろ



たとえば、私の家は「きいろ」だから…洪水時は1階まで浸水するのね。

避難行動判定フローで、洪水時に自宅に滞在可能か分かります。

あなたは自宅に避難可能？ (○をつけよう)

可能 ( 階) ・ 不可能



私の家は…  
・はかかってない  
・自宅は「きいろ」で2階建てだから、逃げ遅れたときは2階に避難できるんだね。

イメージ



Point!

自宅に滞在可でも、まずは避難を検討しましょう。自宅避難の場合は、十分な備えを！

※自宅の浸水リスクがアニメーションやグラフで具体的に分かる「浸水ナビ」もご活用ください。



### 5 緊急安全確保

#### 4 避難指示

#### 3 高齢者等避難

#### 2 大雨・洪水注意報

#### 1 早期注意情報

▲行動を促す情報

check point

### 2 避難のタイミングを考える！

「避難指示」までには必ず全員避難！  
避難指示発令後は、在宅避難または原則徒歩で近隣避難所へ。車での避難は渋滞に巻き込まれる可能性があります。避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、「高齢者等避難」で避難しましょう。

※避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、適宜適切な避難行動を心がけましょう。



うちはおばあちゃんがいるから、早めの行動を心がけなくちゃね。

(作成例)

クッキーちゃん家のマイ・タイムライン

家のマイ・タイムライン

情報・状況	主な備え	備えの例
<b>台風発生</b> <b>レベル 1</b> 台風予報 早期注意情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイ・タイムラインを確認</li> <li>テレビ、インターネットなどで台風情報をよく確認する</li> <li>持出品・備蓄品の確認、足りないものがあれば買っておく</li> <li>飛ばされやすいものは家の中に入れるか固定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ、インターネットなどで今後の台風の状況を調べ始める</li> <li>家の周りに風で飛ばされるようなものがないか確認</li> </ul>
<b>レベル 2</b> 大雨注意報 洪水注意報 台風の今後の見通し	<p>最悪の事態を想定しておかないとね</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水避難決断ブックで自宅の浸水リスクを再確認</li> <li>スマホとモバイルバッテリーを充電</li> <li>「川の防災情報」で川の水位を調べる</li> <li>市ホームページ、SNSをよく確認し、防災行政無線情報メールに注意</li> <li>避難方法について家族と確認</li> <li>県外のおおさんに連絡し、避難する可能性を伝える</li> </ul>	<p><b>水害リスクの確認に！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難するときにもっていくものを準備</li> <li>携帯電話を充電</li> <li>ハザードマップで避難場所や避難の方法を再確認</li> <li>川の水位を調べ始める</li> </ul>
<b>氾濫注意水位到達</b> <b>レベル 3</b> 高齢者等避難 (高齢者等は避難)	<p>うちはおおあちゃんがいるから早めに避難！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おおさんの家へ避難開始</li> <li>道路冠水など周辺の状況に注意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域避難開始(避難パターン1)</li> <li>車での避難はこの時点で広い駐車場のある安全な場所へ</li> <li>広域避難できない方は、栗橋・鷲宮地区の安全レベル★の避難所へ避難開始(順次バスで総合運動公園へ)</li> </ul>
<b>避難判断水位到達</b> <b>レベル 4</b> 避難指示 (危険な場所から全員避難)	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおさんの家に避難完了!</li> <li>避難指示を確認</li> <li>おおさんの家に避難できなかった場合は、ここで2階に在宅避難(持出品・備蓄品は2階に集める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯メールなどで避難情報を受信</li> <li>避難しやすい服装に着替える</li> <li>避難指示を受信</li> <li>広域避難できなかったらここで避難開始(避難パターン3)</li> <li>徒歩での避難が原則</li> <li>安全なところへ移動を始める</li> </ul>
<b>災害発生危険が迫る</b> <b>レベル 5</b> 緊急安全確保	<p>利根川上流河川事務所 保全対策官 <b>延常</b> のぶつね <b>浩次</b> こうじ さん</p> <p>防災の「3K」をご存じですか? 「気づく、考える、行動する」をローマ字で表した、頭文字の3つのKのことです。3Kとは、危険に気づき、どう情報を得てどう危険を避けるかを考え、自分の命を守る行動をすることです。マイ・タイムラインは台風の接近を想定し、3Kを確認しながら作成することで、自分がとるべき行動を「見える化」できます。家族と一緒に話し合い、作ったタイムラインは必ず役に立ちます。これをもとに訓練することも大切です。あなたが「一家の防災リーダー」です!</p>	

キリトリ



裏面にも必要事項を記入しておき、いつでもすぐにすぐ確認できるようにしましょう。

情報・状況	主な備え	備えの例
<b>台風発生</b> <b>レベル 1</b> 台風予報 早期注意情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ、インターネットなどで今後の台風の状況を調べ始める</li> <li>家の周りに風で飛ばされるようなものがないか確認</li> </ul>
<b>レベル 2</b> 大雨注意報 洪水注意報 台風の今後の見通し		<p><b>水害リスクの確認に！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難するときにもっていくものを準備</li> <li>携帯電話を充電</li> <li>ハザードマップで避難場所や避難の方法を再確認</li> <li>川の水位を調べ始める</li> </ul>
<b>氾濫注意水位到達</b> <b>レベル 3</b> 高齢者等避難 (高齢者等は避難)		<ul style="list-style-type: none"> <li>広域避難開始(避難パターン1)</li> <li>車での避難はこの時点で広い駐車場のある安全な場所へ</li> <li>広域避難できない方は、栗橋・鷲宮地区の安全レベル★の避難所へ避難開始(順次バスで総合運動公園へ)</li> </ul>
<b>避難判断水位到達</b> <b>レベル 4</b> 避難指示 (危険な場所から全員避難)		<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯メールなどで避難情報を受信</li> <li>避難しやすい服装に着替える</li> <li>避難指示を受信</li> <li>広域避難できなかったらここで避難開始(避難パターン3)</li> <li>徒歩での避難が原則</li> <li>安全なところへ移動を始める</li> </ul>
<p><b>警戒レベル 4 までに必ず全員避難!</b></p>		
<b>災害発生危険が迫る</b> <b>レベル 5</b> 緊急安全確保	<p>乳幼児や高齢者、疾患のある人など、家族構成によって必要なものが異なります。あなたや家族に何が必要かを確認し、日ごろから備えましょう。</p>	



【写真：平常時の活動等】①九都県市合同防災訓練 ②市内中学校での講演会 ③犬のしつけ教室  
④24時間テレビから寄贈された救助犬輸送車（救助犬派遣時に実際に使用している）

【写真：災害時の行方不明者捜索活動】①②令和3年熱海市土砂災害 ③平成30年広島市豪雨災害  
④平成26年広島市豪雨災害

**主な活動実績  
(行方不明者捜索)**

- ▶ 令和3年 熱海市土砂災害
- ▶ 平成30年 広島市豪雨災害  
…3人のご遺体を発見
- ▶ 平成23年 東日本大震災  
…11人のご遺体を発見

※詳細は協会ホームページまたはfacebookページをご覧ください。

救助犬は生きています。亡くなっている方々にも嗅ぎ分けられます。捜索のスピードが速く、少ない数で対応することができます。

昨年、熱海市で発生した土砂災害にも救助犬を派遣し、消防の方と協力して「この場所に、埋もれた人が残されていないかどうか」の確認の捜索を行いました（右ページ写真②）。ぬかるみの中を歩き、犬も泥だらけでしたが、地元住民の方が水道を貸してくださり、犬をきれいにできたことが大変ありがたかったです。

interview

“何とか見つけ出したいという一心で”

日本搜索救助犬協会  
代表理事 **江口タミ子** さん

久喜市を拠点として活動  
**日本搜索救助犬協会**

菖蒲町三箇在住の江口タミ子氏（現代表理事）によって平成16年に設立。災害時に被災地へ救助犬を派遣し、行方不明者の捜索を行うほか、平常時には防災訓練参加、講演会等の防災啓発活動、犬猫の保護など、精力的に活動を行っている。平成19年に久喜市と「救助犬の出動に関する協定」を締結。

地震や土砂災害などの災害発生時、行方不明者を探すのは人間だけではありません。がれきなどに埋もれた方を、人間よりもはるかに優れた嗅覚で探し出す犬たちを「災害救助犬」と呼びます。そして、その災害救助犬を育成・指導する「ハンドラー」と呼ばれる方たちがいます。

今回は防災特集の特別編として、久喜市を拠点に救助犬の育成・派遣や防災啓発活動を行うNPO法人「日本搜索救助犬協会」取材しました。

ハンドラーの役割  
一口に災害救助犬といっても、人間と同じように性格や素質はさまざま。それぞれの犬の特性を理解し、その犬に合わせた訓練を何度も繰り返し返す。どんな場面でも適切に対応できるようにコントロールすることがハンドラーの重要な役割です。また、実際の捜索時には、救助犬のささいな仕草を見逃さないことが大切。犬に対する深い理解と信頼が、行方不明者の発見につながります。

# 防災特集 特別編

## 埋もれた“いのち”を探して

### 災害救助犬とハンドラー

今後の展望は——  
災害はいつどのような形で起こるか分かりませんので、今後も活動を継続していくために、災害地まで一緒に行っていただけるようなボランティアの方、特に若い方に、ぜひお手伝いいただけると嬉しいです。

防災について——  
災害に対する準備としては、たくさんの方の力を借りるよりも、まずはちゃんと避難することができるといい。いざというときに動けるか？ではないでしょうか。また、ペットに関して言えば、避難に備えて普段からクレート（ケージ）に入れておく訓練をすることが、そういった環境に慣れさせることが大切です。

これまでの活動で印象に残っていることは——  
行方不明者のご家族の方とお会いしたことです。皆さんやはり、救助犬を頼りにされているんです。私も「何とか見つけ出してあげたい」という一心で捜索しています。がれきの山というのは足場が悪く危険ですが、そんな想いもあり、捜索中は恐さを感じることはありません。

ハンドラーは、犬が効率良くにおいを嗅ぎ取ることができるよう、風の流れに注意し、犬を出す位置と方向を考えます。捜索は犬の意欲と自主性に任せますが、時にハンドラーが捜索する方向を指示することもあります。そして要救助者を発見した時に、たくさん褒める。立派な救助犬を育て上げるために、犬とのコミュニケーションを何より大切に、信頼関係を築いている様子が見えました。

ハンドラーは必要に応じて犬の動きを制御。

あっという間に発見！ハンドラーに吠えて伝えます。

やってきたのは東日本最大級の救助犬訓練施設。

取材班も隠れる役で参加。懸命に探してくれています。

**密着取材**  
救助犬の訓練って  
どんなことをする？

取材班は、救助犬訓練施設での訓練に密着。がれきの中に人が隠れ、救助犬はがれきから漏れ出る人のかすかなにおいを頼りに、捜索訓練を行います。

“犬との相互理解と信頼関係が必要”

まつやま ひろゆき  
日本搜索救助犬協会 ハンドラー **松山 裕之** さん

訓練に携わる者として「犬は人の想像を絶する嗅覚を持っている」というのが実感です。例えば、公園に大きな木があって、数時間前にそこに人がしばらくの間たずんでいたとします。人がその場を離れてから数時間後、人間はそれを知ることができませんが、犬は「ここに人がいたな」と自然に感じ取るといいます。

ハンドラーは、人に見えない世界を犬に教えてもらいます。教えてもらうために、犬と人、両者の訓練と相互理解と信頼関係が必要になります。犬の優れた嗅覚だけでは救助犬は成り立たないので、良きハンドラーとなることを目指して励んでいます。